

AXIS D1110 Video Decoder 4K

目次

使用に当たって	3
ネットワーク上のデバイスを検索する	3
ブラウザサポート	3
装置のwebインターフェースを開く	3
管理者アカウントを作成する	3
安全なパスワード	4
デバイスのソフトウェアが改ざんされていないことを確認する	4
webインターフェースの概要	4
デバイスを構成する	5
カメラの追加	5
カメラソースを編集する	5
カメラを削除する	5
メディアファイルの追加	5
シーケンスの設定	5
コントロールボードを使用してビューを移動し、カメラを操作する	6
コントロールボードのキーリファレンス	6
イベントのルールを設定する	7
アクションをトリガーする	7
音声	7
音声ファイル	7
webインターフェース	8
詳細情報	9
ストリーミングとストレージ	9
ビデオ圧縮形式	9
外部ストレージ装置	9
サイバーセキュリティ	9
署名付きOS	9
セキュアブート	10
Axis Edge Vault	10
AxisデバイスID	10
仕様	11
製品概要	11
.....	11
LEDインジケータ	11
SDカードスロット	11
ボタン	12
コントロールボタン	12
コネクタ	12
HDMI™コネクタ	12
ネットワークコネクタ	12
USBコネクタ	12
音声コネクタ	12
電源コネクタ	12
トラブルシューティング	14
工場出荷時の設定にリセットする	14
AXIS OSのオプション	14
AXIS OSの現在のバージョンを確認する	14
AXIS OSをアップグレードする	15
技術的な問題と解決策	15
パフォーマンスに関する一般的な検討事項	17
サポートに問い合わせる	17

使用に当たって

ネットワーク上のデバイスを検索する

Windows®で検索したAxisデバイスにIPアドレスの割り当てを行うには、AXIS IP UtilityまたはAXIS Device Managerを使用します。いずれのアプリケーションも無料で、axis.com/supportからダウンロードできます。

IPアドレスの検索や割り当てを行う方法の詳細については、*IPアドレスの割り当てとデバイスへのアクセス方法を参照してください。*

ブラウザーサポート

以下のブラウザーでデバイスを使用できます。

	Chrome™	Edge™	Firefox®	Safari®
Windows®	✓	✓	*	*
macOS®	✓	✓	*	*
Linux®	✓	✓	*	*
その他のオペレーティングシステム	*	*	*	*

✓: 推奨:

*: 制限付きでサポート

装置のwebインターフェースを開く

1. ブラウザーを開き、Axis装置のIPアドレスまたはホスト名を入力します。本製品のIPアドレスが不明な場合は、AXIS IP UtilityまたはAXIS Device Managerを使用して、ネットワーク上のデバイスを見つけます。
2. ユーザー名とパスワードを入力します。装置に初めてアクセスする場合は、管理者アカウントを作成する必要があります。管理者アカウントを作成する, *on page 3*を参照してください。

AXIS OS搭載デバイスのWebインターフェースのすべての機能および設定に関する説明は、AXIS OS Webインターフェースのヘルプを参照してください。

管理者アカウントを作成する

装置に初めてログインするときには、管理者アカウントを作成する必要があります。

1. ユーザー名を入力してください。
2. パスワードを入力します。安全なパスワード, *on page 4*を参照してください。
3. パスワードを再入力します。
4. 使用許諾契約書に同意します。
5. [Add account (アカウントを追加)] をクリックします。

重要

装置にはデフォルトのアカウントはありません。管理者アカウントのパスワードを紛失した場合は、装置をリセットする必要があります。工場出荷時の設定にリセットする, *on page 14*を参照してください。

安全なパスワード

重要

ネットワーク上でパスワードやその他の機密設定を行う場合は、HTTPS (デフォルトで有効になっています) を使用してください。HTTPSを使用すると、安全で暗号化された形でネットワークに接続できるため、パスワードなどの機密データを保護できます。

デバイスのパスワードは主にデータおよびサービスを保護します。Axisデバイスは、さまざまなタイプのインストールで使用できるようにするためパスワードポリシーを強制しません。

データを保護するために、次のことが強く推奨されています。

- 8文字以上のパスワードを使用する (できればパスワード生成プログラムで作成する)。
- パスワードを公開しない。
- 一定の期間ごとにパスワードを変更する (少なくとも年に1回)。

デバイスのソフトウェアが改ざんされていないことを確認する

装置に元のAXIS OSが搭載されていることを確認するか、またはセキュリティ攻撃が行われた後に装置を完全に制御するには、以下の手順に従います。

1. 工場出荷時の設定にリセットします。工場出荷時の設定にリセットする, on page 14を参照してください。
リセットを行うと、セキュアブートによって装置の状態が保証されます。
2. デバイスを設定し、インストールします。

webインターフェースの概要

このビデオでは、装置のwebインターフェースの概要について説明します。



Axis装置のwebインターフェース

デバイスを構成する

カメラの追加

1. [Video sources (ビデオソース)] > [Camera sources (カメラソース)] に移動します。
2.  **Add camera source (カメラソースを追加)** をクリックします。
 - 既定のカメラをリストから追加するには、**[Network discovery (ネットワーク検出)]** を選択します。
 - カメラを手動で追加する場合は、**[Manual (手動)]** を選択します。
 - Axisカメラの場合: 名前、IPアドレス、ストリーミングプロトコル、ポート、カメラのユーザー名とパスワードを入力します。
 - サードパーティ製のカメラの場合: 名前、IPアドレス、カメラのユーザー名とパスワードを入力します。
3. [追加] をクリックします。

カメラソースを編集する

カメラを追加した後、[Edit (編集)] ビューから設定を編集できます。

1. [Video sources (ビデオソース)] > [Camera sources (カメラソース)] に移動します。
2. カメラソースを選択し、 をクリックします。
3. [Edit (編集)] をクリックし、変更を行います。
4. [保存] をクリックします。

カメラを削除する

1. [Video sources (ビデオソース)] > [Camera sources (カメラソース)] に移動します。
2. カメラソースを選択し、 をクリックします。
3. [Delete (削除)] をクリックして確定します。

メディアファイルの追加

1. [Video sources (ビデオソース)] > [Media sources (メディアソース)] に移動します。
2.  **Add media source (メディアソースを追加)** をクリックします。
3. メディアファイルを装置にアップロードし、配置場所を選択します。
4. [追加] をクリックします。

シーケンスの設定

1. [Sequences (シーケンス)] > [Sequences (シーケンス)] に移動します。
2.  **Add sequence (シーケンスを追加)** をクリックします。
3. 新しいシーケンスの名前を入力します。
4.  をクリックし、ビューのレイアウトを選択します。

5. ビューウィンドウで、[Click to select camera source or media for this segment (クリックしてこのセグメントのカメラソースまたはメディアを選択)] が表示されます。
6. [Camera (カメラ)] または [Media (メディア)] を選択し、リストからソースを選択します。

注

- 低遅延モードを有効にするには、H.264ビデオコーデックのみを選択します。ネットワークトラフィックを増大させるBフレームを無効にすることで、カメラストリームの遅延が低減されます。
 - サードパーティ製カメラの場合は、カメラのメーカーから取得したURIを追加します。
7. [Add (追加)] をクリックして、ビューウィンドウがいっぱいになるまでソースを追加し続けます。
 8. シーケンスにビューウィンドウをさらに追加するには、 をクリックします。
 9. [保存] をクリックします。
 10.  をクリックして、シーケンスを再生します。
 11. シーケンスをデフォルトとして設定して他がアクティブでないときに再生するには、 をクリックし、[Set as default sequence (デフォルトシーケンスとして設定)] を選択します。

コントロールボードを使用してビューを移動し、カメラを操作する

1. デコーダーにカメラを追加します。カメラの追加, on page 5を参照してください。
2. AxisカメラのPTZを必ずオンにしてください。
3. AXIS TU9001 Control Boardをデコーダーに接続します。
4. デコーダーのwebインターフェースで、[Sequences (シーケンス)] > [Joystick controls (ジョイスティックコントロール)] に移動し、[Joystick (ジョイスティック)] をオンにします。

コントロールボードのキーリファレンス

注

ペインを選択すると、ビューの自動変更が一時停止されます。

説明	AXIS TU9001
単一ビューでカメラのPTZをオンにします。	F1
分割ビューのペイン <P> のカメラでPTZをオンにします。	<P> + F1
分割ビューのペイン <P> のカメラを全画面に設定し、PTZをオンにします。	<P> + 
PTZをオフにして、全画面表示から前のシーケンスに戻ります。	
選択したカメラをパンします。	ジョイスティックを左右に動かす
選択したカメラをチルトします。	ジョイスティックを上下に動かす
選択したカメラをズームします。	ジョイスティックヘッドを左右に動かす
単一ビューでPTZプリセット <N> に移動し、PTZをオンにします。	J<N>

単一ビューでPTZプリセット <N> を設定し、PTZをオンにします。	ALT + J<N>
分割ビューのペイン <P> のPTZプリセット <N> に移動し、PTZをオンにします。	<P> + J<N>
分割ビューのペイン <P> のPTZプリセット <N> を設定し、PTZをオンにします。	<P> + ALT + J<N>

例:

- AXIS TU9003で2を押してからAXIS TU9002でJ1を押すと、カメラは現在の分割ビューのペイン2のPTZプリセット1に移動します。
- AXIS TU9003で5を押してからF1を押すと、現在の分割ビューのペイン5のカメラのPTZがオンになります。

コントロールボードの詳細については、ユーザーマニュアルを参照してください。

イベントのルールを設定する

特定のイベントが発生したときにデバイスにアクションを実行させるように、ルールを作成することができます。ルールは条件とアクションで構成されます。条件を使用して、アクションをトリガーすることができます。たとえば、デバイスは動きを検知したときに、録画を開始したり、電子メールを送信したりすることができ、デバイスが録画をしている間にオーバーレイテキストを表示することができます。

詳細については、「イベントのルールの使用開始」を参照してください。

アクションをトリガーする

1. [System > Events (システム > イベント)] に移動し、ルールを追加します。このルールでは、装置が特定のアクションを実行するタイミングを定義します。ルールは、スケジュールや繰り返しとして設定することも、手動でトリガーするように設定することもできます。
2. [Name (名前)] に入力します。
3. アクションをトリガーするために満たす必要がある [Condition (条件)] を選択します。ルールに複数の条件を指定した場合は、すべての条件が満たされたときにアクションがトリガーされます。
4. 条件が満たされたら実行する Action (アクション) を選択します。

注

- アクティブなルールを変更する場合は、ルールを再度オンにして変更内容を有効にする必要があります。

音声

音声ファイル

本装置は音声のみのファイルをサポートしていません。

webインターフェース

AXIS OS搭載デバイスのWebインターフェースで利用可能なすべての機能と設定については、*AXIS OS Webインターフェースのヘルプ*に移動します。

詳細情報

ストリーミングとストレージ

ビデオ圧縮形式

使用する圧縮方式は、表示要件とネットワークのプロパティに基づいて決定します。以下から選択を行うことができます。

H.264またはMPEG-4 Part 10/AVC

注

H.264はライセンスされた技術です。このAxis製品には、H.264閲覧用のクライアントライセンスが1つ添付されています。ライセンスされていないクライアントのコピーをインストールすることは禁止されています。ライセンスを追加購入するには、Axisの販売代理店までお問い合わせください。

H.264を使用すると、画質を損なうことなく、デジタル映像ファイルのサイズを削減でき、Motion JPEG形式の場合と比較すると80%以上、従来のMPEG形式と比較すると50%以上を削減できます。そのため、ビデオファイルに必要なネットワーク帯域幅やストレージ容量が少なくなります。また、別の見方をすれば、より優れた映像品質が同じビットレートで得られることとなります。

H.265またはMPEG-H Part 2/HEVC

H.265を使用すると、画質を損なうことなくデジタルビデオファイルのサイズを削減でき、H.264に比べて25%以上縮小することができます。

注

- H.265はライセンスされた技術です。このAxis製品には、H.265閲覧用のクライアントライセンスが1つ添付されています。ライセンスされていないクライアントのコピーをインストールすることは禁止されています。ライセンスを追加購入するには、Axisの販売代理店までお問い合わせください。
- ほとんどのWebブラウザはH.265のデコードに対応していないため、カメラはWebインターフェースでH.265をサポートしていません。その代わりに、H.265のデコーディングに対応した映像管理システムやアプリケーションを使用できます。

外部ストレージ装置

ビデオデコーダによって認識されるようにするには、外部ストレージ装置の最初のパーティションでexFATまたはext4ファイルシステムを使用する必要があります。

サイバーセキュリティ

サイバーセキュリティに関する製品固有の情報については、axis.comの製品データシートを参照してください。

AXIS OSのサイバーセキュリティの詳細情報については、『AXIS OS強化ガイド』を参照してください。

署名付きOS

署名付きOSは、ソフトウェアベンダーがAXIS OSイメージを秘密鍵で署名することで実装されます。オペレーティングシステムに署名が付けられると、装置はインストール前にソフトウェアを検証するようになります。装置でソフトウェアの整合性が損なわれていることが検出された場合、AXIS OSのアップグレードは拒否されます。

セキュアブート

セキュアブートは、暗号化検証されたソフトウェアの連続したチェーンで構成される起動プロセスで、不変メモリ (ブートROM) から始まります。署名付きOSの使用に基づいているため、セキュアブートを使うと、装置は認証済みのソフトウェアを使用した場合のみ起動できます。

Axis Edge Vault

ハードウェアベースのサイバーセキュリティプラットフォーム「Axis Edge Vault」により、Axisデバイスを保護することができます。装置のIDと整合性を保証し、不正アクセスから機密情報を保護する機能を提供します。これは、エッジデバイスセキュリティに関する専門知識を駆使して、暗号コンピューティングモジュール (セキュアエレメントやTPM) とSoCセキュリティ (TEEやセキュアブート) に基づき構築された強力な基盤により成り立っています。

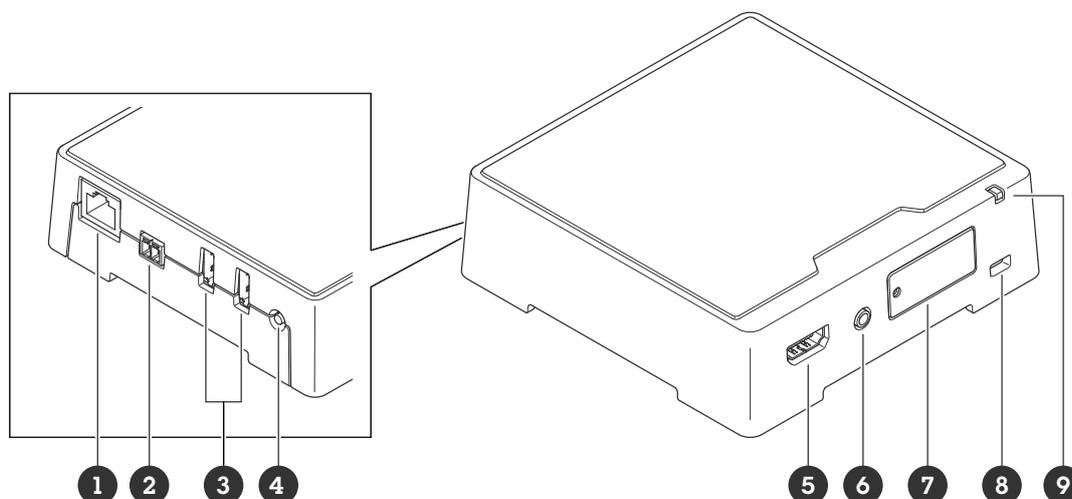
AxisデバイスID

デバイスIDの信頼性を確立するには、デバイスの出所を確認できることが鍵となります。Axis Edge Vaultを搭載したデバイスには、生産工程で、工場でのプロビジョニングされ、国際規格 (IEEE 802.1AR) に準拠した一意のAxisデバイスID証明書が割り当てられます。これがデバイスの出所を証明するパスポートのような役割を果たします。デバイスIDは、Axisルート証明書により署名された証明要素として、セキュリティで保護されたキーストアに安全かつ永続的に格納されます。お客様のITインフラストラクチャーでデバイスIDを活用し、装置のセキュアな自動化オンボーディングや、装置のセキュアな識別に役立てることができます。

Axis装置のサイバーセキュリティ機能の詳細については、axis.com/learning/white-papers/にアクセスし、サイバーセキュリティを検索してください。

仕様

製品概要



- 1 PoEネットワークコネクタ
- 2 電源コネクタ
- 3 USBポート×2
- 4 コントロールボタン
- 5 HDMIタイプAコネクタ
- 6 音声出力
- 7 microSDカードスロット
- 8 セキュリティスロット
- 9 ステータスLED

LEDインジケータ

ステータスLED	説明
オレンジ	起動中または工場出荷時の設定へリセット中、設定の復元時に点灯します。
オレンジ/赤	起動中、ネットワーク接続が利用できないか失われた場合に点滅します。
緑	起動後正常に動作する場合、10秒間、緑色に点灯します。 LEDが緑色に点灯した後に消灯すると、装置は動作しています。
緑/赤	識別目的の場合に点滅します。

SDカードスロット

注意

- ・ SDカード損傷の危険があります。SDカードの挿入と取り外しの際には、鋭利な工具や金属性の物を使用したり、過剰な力をかけたりしないでください。カードの挿入や取り外しは指で行ってください。
- ・ データ損失や録画データ破損の危険があります。SDカードを取り外す前に、装置のwebインターフェースからマウント解除してください。本製品の稼働中はSDカードを取り外さないでください。

本装置は、microSD/microSDHC/microSDXCカードに対応しています。

推奨するSDカードについては、axis.comを参照してください。

 microSD、microSDHC、およびmicroSDXCロゴは、SD-3C LLCの商標です。microSD、microSDHC、microSDXCは、米国および/または他の国々におけるSD-3C, LLCの商標または登録商標です。

ボタン

コントロールボタン

コントロールボタンは、以下の用途で使用します。

- 製品を工場出荷時の設定にリセットする。工場出荷時の設定にリセットする, *on page 14*を参照してください。
- インターネット経由でワンクリッククラウド接続 (O3C) サービスに接続します。接続するには、ボタンを押してから放し、ステータスLEDが緑色に3回点滅するまで待ちます。

コネクタ

HDMI™コネクタ

ディスプレイやパブリックビューモニターへの接続には、HDMI™コネクタを使用します。

ネットワーク コネクタ

Power over Ethernet (PoE) 対応RJ45イーサネットコネクタ

USBコネクタ

USBコネクタを使用して外部アクセサリを接続します。サポートされるアクセサリについては、製品のデータシートを参照してください。

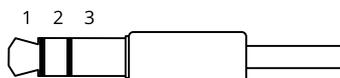
重要

一度にサポートされるUSBストレージは1つのみです。

USBストレージを取り外す前に、装置の電源をオフにしてください。

音声コネクタ

- 音声出力 - 3.5 mm音声 (ラインレベル) 出力 (パブリックアドレス (PA) システムまたはアンブ内蔵アクティブスピーカーに接続可能)。音声出力には、ステレオコネクタを使用する必要があります。



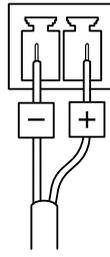
音声出力

1 チップ	2 リング	3 スリーブ
チャンネル1、アンバランス型ライン、モノラル	チャンネル1、アンバランス型ライン、モノラル	アース

電源コネクタ

AC/DCコネクタ。付属のアダプターを使用します。

DC電源入力用2ピンターミナルブロック。定格出力が**100 W**以下または**5 A**以下の安全特別低電圧 (SELV) に準拠した有限電源 (LPS) を使用してください。



注

DCが利用可能な場合は、PoEよりもDCが優先されます。

トラブルシューティング

工場出荷時の設定にリセットする

重要

工場出荷時の設定へのリセットは慎重に行ってください。工場出荷時の設定へのリセットを行うと、IPアドレスを含むすべての設定が工場出荷時の値にリセットされます。

本製品を工場出荷時の設定にリセットするには、以下の手順に従います。

1. 本製品の電源を切ります。
2. コントロールボタンを押した状態で電源を再接続します。製品概要, on page 11を参照してください。
3. ステータスLEDインジケーターがオレンジで点滅するまでコントロールボタンを15~30秒間押し続けます。
4. コントロールボタンを放します。プロセスが完了すると、ステータスLEDが緑色に変わります。ネットワーク上にDHCPサーバーがない場合、装置のIPアドレスのデフォルトは次のいずれかになります。
 - **AXIS OS 12.0以降の装置:** リンクローカルアドレスサブネット (169.254.0.0/16) から取得
 - **AXIS OS 11.11以前の装置:** 192.168.0.90/24
5. インストールおよび管理ソフトウェアツールを使用して、IPアドレスの割り当て、パスワードの設定、装置へのアクセスを行います。
axis.com/supportのサポートページに、インストールおよび管理ソフトウェアツールが用意されています。

装置のwebインターフェースを使用して、各種パラメーターを工場出荷時の設定に戻すこともできます。[Maintenance (メンテナンス) > Factory default (工場出荷時の設定)] に移動し、[Default (デフォルト)] をクリックします。

AXIS OSのオプション

Axisは、アクティブトラックまたは長期サポート (LTS) トラックのどちらかに従って、装置のソフトウェアの管理を提供します。アクティブトラックでは、最新の製品機能すべてに常時アクセスできますが、LTSトラックの場合、バグフィックスやセキュリティ更新に重点を置いた定期的リリースが提供される固定プラットフォームを使用します。

最新の機能にアクセスする場合や、Axisのエンドツーエンドシステム製品を使用する場合は、アクティブトラックのAXIS OSを使用することをお勧めします。最新のアクティブトラックに対して継続的な検証が行われないサードパーティの統合を使用する場合は、LTSトラックをお勧めします。LTSにより、大きな機能的な変更や既存の統合に影響を与えることなく、サイバーセキュリティを維持することができます。Axis装置のソフトウェア戦略の詳細については、axis.com/support/device-softwareにアクセスしてください。

AXIS OSの現在のバージョンを確認する

装置の機能はAXIS OSによって決まります。問題のトラブルシューティングを行う際は、まずAXIS OSの現在のバージョンを確認することをお勧めします。最新バージョンには、特定の問題の修正が含まれていることがあります。

AXIS OSの現在のバージョンを確認するには:

1. 装置のwebインターフェース > [Status (ステータス)] に移動します。
2. [Device info (デバイス情報)] で、AXIS OSのバージョンを確認します。

AXIS OSをアップグレードする

重要

- デバイスソフトウェアのアップグレードでは、既定の設定とカスタマイズ設定が保存されます。Axis Communications ABは、新しいAXIS OSバージョンで機能が利用可能であっても、設定が保存されることを保証できません。
- AXIS OS 12.6以降、お使いのデバイスの現在のバージョンからアップグレードバージョンまでのすべてのLTSバージョンをインストールする必要があります。たとえば、現在インストールされているデバイスソフトウェアのバージョンがAXIS OS 11.2の場合、デバイスをAXIS OS 12.6にアップグレードする前に、LTSバージョンであるAXIS OS 11.11をインストールする必要があります。詳しくは、*AXIS OS Portal: アップグレードパス*を参照してください。
- アップグレードプロセス中は、デバイスを電源に接続したままにしてください。

注

- アクティブトラックのAXIS OSの最新バージョンで装置をアップグレードすると、製品に最新機能が追加されます。アップグレードする前に、AXIS OSと共に提供されるアップグレード手順とリリースノートを必ずお読みください。AXIS OSの最新バージョンとリリースノートについては、axis.com/support/device-software/にアクセスしてください。
1. AXIS OSのファイルをコンピューターにダウンロードします。これらのファイルはaxis.com/support/device-software/から無料で入手できます。
 2. デバイ스에 管理者としてログインします。
 3. **[Maintenance (メンテナンス)] > [AXIS OS upgrade (AXIS OSのアップグレード)]** に移動し、**[Upgrade (アップグレード)]** をクリックします。

アップグレードが完了すると、製品は自動的に再起動します。

AXIS Device Managerを使用すると、複数の装置を同時にアップグレードできます。詳細については、axis.com/products/axis-device-manager/をご覧ください。

技術的な問題と解決策

AXIS OSのアップグレード時の問題

AXIS OSアップグレード失敗

アップグレードに失敗した場合、装置は前のバージョンを再度読み込みます。最も一般的な理由は、AXIS OSの間違ったファイルがアップロードされた場合です。装置に対応したAXIS OSのファイル名であることを確認し、再試行してください。

AXIS OSのアップグレード後の問題

アップグレード後に問題が発生する場合は、**[Maintenance (メンテナンス)]** ページから、以前にインストールされたバージョンにロールバックします。

IPアドレスの設定で問題が発生する

IPアドレスを設定できない

- デバイス用のIPアドレスと、デバイスへのアクセスに使用するコンピューターのIPアドレスが異なるサブネットにある場合は、IPアドレスを設定することはできません。ネットワーク管理者に連絡して、適切なIPアドレスを取得してください。
- そのIPアドレスは別のデバイスで使用されている可能性があります。以下の手順で確認してください。
 1. デバイスをネットワークから切断します。
 2. コマンドウィンドウまたはDOSウィンドウで、pingコマンドとデバイスのIPアドレスを入力します。
 3. Reply from <IP address>: bytes=32; time=10...という応答を受取った場合は、ネットワーク上の別のデバイスでそのIPアドレスがすでに使われている可能性があります。ネットワーク管理者から新しいIPアドレスを取得し、デバイスを再度インストールしてください。
 4. Request timed outが表示された場合は、AxisデバイスでそのIPアドレスを使用できません。この場合は、すべてのケーブル配線をチェックし、デバイスを再度インストールしてください。
- 同じサブネット上の別のデバイスとIPアドレスの競合が発生している可能性があります。DHCPサーバーによって動的アドレスが設定される前は、Axisデバイスは静的IPアドレスを使用します。つまり、デフォルトの静的IPアドレスが別のデバイスでも使用されていると、デバイスへのアクセスに問題が発生する可能性があります。

デバイスへのアクセスの問題

ブラウザからデバイスにアクセスする際、ログインできない

HTTPSが有効になっている場合、ログインを試行するときに正しいプロトコル (HTTPまたはHTTPS) を使用していることを確認します。場合によっては、ブラウザのアドレスフィールドに手動でhttpまたはhttpsを入力する必要があります。

rootアカウントのパスワードを忘れた場合は、デバイスを工場出荷時の設定にリセットする必要があります。手順については、工場出荷時の設定にリセットする, *on page 14*を参照してください。

DHCPによってIPアドレスが変更された

DHCPサーバーから取得したIPアドレスは動的なアドレスであり、変更されることがあります。IPアドレスが変更された場合は、AXIS IP UtilityまたはAXIS Device Managerを使用してデバイスのネットワーク上の場所を特定してください。デバイスのモデルまたはシリアル番号、あるいはDNS名 (設定されている場合) を使用してデバイスを識別します。

必要に応じて、静的なIPアドレスを手動で割り当てることができます。手順については、axis.com/supportにアクセスしてください。

IEEE 802.1X使用時の証明書エラー

認証を正しく行うには、Axisデバイスの日付と時刻をNTPサーバーと同期させなければなりません。[System (システム) > Date and time (日付と時刻)] に移動します。

ブラウザがサポートされていません

推奨ブラウザの一覧は、[ブラウザサポート](#), *on page 3*を参照してください。

外部からデバイスにアクセスできません

装置に外部からアクセスする場合は、以下のいずれかのWindows®向けアプリケーションを使用することをお勧めします。

- AXIS Camera Station Edge：無料で使用でき、最小限の監視が必要な小規模システムに最適です。
- AXIS Camera Station Pro:90日間の試用版を無料で使用でき、中小規模のシステムに最適です。

手順とダウンロードについては、axis.com/vmslにアクセスしてください。

MQTTの問題

MQTTオーバSSLを使用してポート8883経由で接続できない

ファイアウォールは、ポート8883を使用する通信を安全ではないとみなし、ブロックします。

場合によっては、サーバー/ブローカーによってMQTT通信用に特定のポートが提供されていない可能性があります。この場合でも、HTTP/HTTPSトラフィックに通常使用されるポート経由でMQTTを使用できる場合もあります。

- サーバー/ブローカーが、通常はポート443経由で、WebSocket/WebSocket Secure (WS/WSS) をサポートしている場合は、代わりにこのプロトコルを使用してください。サーバー/ブローカープロバイダーに問い合わせ、WS/WSSがサポートされているかどうか、どのポートと基本パスを使用するかを確認してください。
- サーバー/ブローカーがALPNをサポートしている場合、MQTTの使用は443などのオープンポートでネゴシエートできます。ALPNのサポートの有無、使用するALPNプロトコルとポートについては、サーバー/ブローカーのプロバイダーに確認してください。

デバイスの動作に関する問題

フロントヒーターとワイパーが作動していない

フロントヒーターまたはワイパーがオンにならない場合は、上部カバーがハウジングユニットの底部に正しく固定されているか確認してください。

このページで解決策が見つからない場合は、axis.com/supportのトラブルシューティングセクションに記載されている方法を試してみてください。

パフォーマンスに関する一般的な検討事項

- HTTPSを使用すると、フレームレートが低下する場合があります。
- 貧弱なインフラによるネットワークの使用率が高いと帯域幅に影響します。
- ビデオストリームの入力と出力の間に相関関係がない場合、ビデオデコーダの性能に影響を与える可能性があります。

サポートに問い合わせる

さらにサポートが必要な場合は、axis.com/supportにアクセスしてください。

T10192361_ja

2026-02 (M14.2)

© 2023年 – 2026 Axis Communications AB